

読む人の
幸せを
心に願って
作る

no.542

喜びの タネまき 新聞



写真・阿部高嗣 花がすみの日

一歩一歩の積み重ね

休日に一時間のジョギングをして二十数年が経ちます。家を基点に走るコースも幾つかあり、四季折々の季節を感じて汗を流すのは気分転換になります。走り始めたころに比べ年齢と共に同じコースでも時間がかかるようになってきました。

ある記事で「何事も挑戦する気持ちを持つこと」が目にとまり、二時間ほどジョギングしてみようと試みました。それでも何回かは「次にしよう」と先延ばしし、やっとの思いで決心を固めました。一時間まではいつものペースでしたが、次第に足の痛さを感じ「いつ止めようか」と思う気持ちが強くなり走り続けることが難しくなります。仕事と違って誰も見ていないし、自分だけの目標なのでつい弱気になるのでしよう。その都度「次の交差点まで」「あと一〇分だけ頑張ろう」と目標を身近に置くと二時間走り続けることができました。

人生では色々な目標を決めても達成するまでには多くの困難がある。つい諦めてしまいうこともありますが、大きな目標に向かう時でも現状から一歩一歩しか進まない。大きな目標を持ちつつ、行動は身近な目標に置き換えて一つ一つ達成することが大切だと今回のジョギングで学びました。

株式会社タスキン社長

山村輝治

卒業式のあと、入学式。桜の季節は思ひ出深い。春の便りは桜の花とともに来るから、いつそ喜びに満ちているのだろう。

「春の便り」

多くの育った町は桜の名所で、駅ができる時に駅名に「花」の字が付けられたくらい桜並木が多かった。家族での花見もまるでピクニックのようだったが、駅前。周りを見渡すと近所の知った顔ばかりだった。大人たちは「どうもどうも」といつて話に花を咲かせ、子どもたちはもちろん「花より団子」で盛り上がった。

山登りをするようになって、季

節をより鮮やかに感じるようになった。春が訪れると、里山ではスミレやカタクリの花がにこやかに顔を出し、山桜は清冽な花を咲かせた。そういえば山里を歩いていると立派な桜をよく見かける。これは桜の開花が、田植えや種まきの農作業を知らせる目安とされたからだ。だからたいてい目立つところに植えてある。

ある年の春、友人と茨城県の山

に行った。曲がりくねった山深い道をクルマで上がると、ぼつかり空が抜けたような見晴らしのいい山上の集落に突き当たった。木々はちょうど芽吹いたばかりで、山肌の緑は淡いパステルのような優しさにあふれていた。思わずスケッチしたくなるような、おだやかな春の風情に「いいね、春がきたよ」と友人の顔がほころんだ。

そこから目当ての山まで歩き出すと、そこかしこに小さな春を見つけた。山頂でのんびり過ごし、緩やかな峠道を下って行くと思いがけず桜が現れた。ぱっと目をひく立ち姿で、山道に沿って咲き誇っている。見るときちゃんと村人の手によつて植えられたようで、等間隔に桜並木が続く峠路である。

昔は村人が峠を越え、肩に背負つて町まで農作物を運んだ。帰りには必要な品を再び背負つて村への道をたどる。目印の桜並木は励みでも喜びでもあったろう。花の道で喜びを分けてもらうことにして、しばしの花見。そのとき飲んだお茶は幸運の味がした。春っていいものである。



待ちきれない焼きあがりの味

「レモンスフレ」

シンプルな材料で作り方も簡単。それなのに、あつと驚くような本格派！ふわふわの食感と爽やかなレモンの香りがひきたつように、熱いうちに召し上がってください。

お料理研究家 こいけりえ

◎作り方(6個分)◎下準備

無塩バター50gは室温に戻しておく。これをボウルに入れ、ゴムべらでクリーム状になるまでしっかりと練り上げる。グラニュー糖40gを加えて、ざらつとした感じがなくなるまですり混ぜたら、卵黄2個を加えてよく合わせる。この後、ゴムべらを泡だて器にかえてしっかりと混ぜ合わせます。さらにその中にレモン汁50mlを加え、薄力粉40gはふるいにかけながら入れ、次々とよく混ぜ合わせる。

鍋に牛乳75mlと生クリーム25mlを入れ、沸騰しないように温めてから生地に加えてよく混ぜ合わせておく。

◎メレンゲ作り

別のボウルに卵白2個分と塩少々、グラニュー糖40gを加え、角が立つまで泡立てる。泡立てたメレンゲの3分の1を生地に加えて泡だて器で馴染むように混ぜ、残りを入れて、泡をつぶさないようにさっくりと混ぜる。

◎型に入れる

今回使用する型は直径7cm×高さ5cmのシリコン製マフィン型。なければステンレス製のプリンカップでもOK。

型全体にバターを塗り、グラニュー糖をまぶしたら生地を流し入れる。その時目一杯入れずに1cmほど上部を残しておく。

◎オーブンで焼く

バットに熱湯を入れて型を並べ、予め160℃に温めたオーブンに入れて約50分焼く。その後バットから型をはずし、さらに5分焼き上げる。火傷には十分気をつけて。ふつくと焼き上がったら、型が温かいうちに逆さにしてはずす。

◎仕上げ

ほろ苦さがアクセントになるレモンの皮は良く洗い、薄く剥いて細い千切りにする。お皿にスフレのをせ、レモンの皮をちらし、粉砂糖をまぶして中心にはちみつをかけたら出来上がり。アツアツがおすすめなので、冷めたら電子レンジで軽く温めてください。

卵は2個
卵白はメレンゲに



ふつとがいうちに
型からはずす

できあがり♪



絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録16年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に陽はのぼる」(山と溪谷社)、『お江戸超低山さんぽ』(書肆侃侃房)、『森のくらし』(リヨン社)など。

みてもらおう！

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



ノリノリです♪
福岡県久留米市
小柳千恵子



ん？かっこいい？
鳥根県安来市
角森玲子



イチゴ！
とまらない！
東京都八王子市
引間俊雄

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！
(詳細は7ページ)

「絵手紙634枚は

礼状が始まり」

工場の2階で古伊万里資料館

白慢できるのは好きをやってきた

人生



東京都墨田区 応後大吾さん(65)



高さにちなんだ数の絵手紙を展示した古伊万里資料館は、スカイツリーが見える下町。

館長・応後さんへの礼状を15年前に展示して以来、毎年恒例の行事の日にお訪ねしました。



手描きのエナメルが鮮やかな昭和のグラス。



あれ、ここでのいいのかな？と思いつつ、2階へ。工場の横にある普通の階段を上って扉を開けたら、なんと絵手紙を展示したみんなが揃うお茶の時間。館長への礼状を毎年展示して15年。来館者はまったりくつろいで、おしゃべりに冗談が飛び交う。おつきあいは長いが初めての方もつい長居しそうな楽しさ。

江戸から明治時代の和だんす、長火鉢、はたまた階段だんすが5部屋に配置され、古伊万里が並ぶ博物館は1990年にオープン。広い2階は、応後さんが勤める1階の自動車整備工場「エーエス自動車」の社長が、24年間も無償で提供してくれている。「いらつしやい！」と笑顔で迎えてくれた応後さんは、平日は整備士、土曜日は館長。古伊万里の魅力を語ってあまりに面白いので、愛好家ならずとも引き込

まれる。絵手紙を描く女性達のアイドルのような存在である。

応後さんが古伊万里を知ったのは実家の建て替え時。縁の下から出てきたのが縁！で、自前で骨董品を買ったのが昭和45年。22歳の若者が3百年前の食器に、はまったのである…。美しい藍色の文様が蛸唐草^{たこからささ}ともよばれる磁器。「蛸なんか」と冗談にいう人もいるが「江戸中期の逸品は奥深い」と館長はむきになる。

若き応後青年は、食費も惜しむほどの収集の一途さゆえに、多くの人から愛されたであろう。「人生って、思い込みだから」と笑うが、「恋愛だつてそうだよ。でも、骨董は年をとるほど良くなる」とユーモアをにじませる。場所を貸す整備会社の社長、骨董屋、収集家、そして女性達も、応後さんの思う通りに生きる痛快さに憧れてか。もちろん

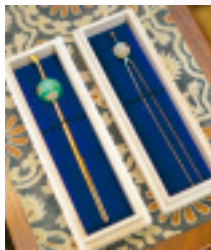
男性も来る。「展示の部屋は格好良く」と窓枠までつけた友もいれば、ふらつと毎土曜に寄り「おれが集めてる仏像のほうがいいやね」と挑発する友もいる。すると、「40年も一緒だと友達はいいもんだ。嫌いでも縁が切れないんだよ」

仲が良いからの軽口だ。諧謔^{かいぎやく}たつぶりの「応後ワールド」は千客万来。たんすの引き出しを開けると古布、昭和のガラス器、古い香水瓶…お宝が出てくるのが楽しい。貴重な豊国や広重の浮世絵、関東大震災の延焼を記した地図などもあり、下町の文化や生活感あふれる江戸情緒がある。40年以上もの時をかけて集めた古い品々と思いが人を癒すのかも…そんな博物館である。

土曜の開館日に通う梶村瑛子^{すきむら えいこ}さん(79)も絵手紙展の一人だが、「展示終了後の青い静けさが好き」自称副館長なのである。



昭和の香水瓶は凝ったガラス製。かんざしはもつと古いかも。「銀座のお店にあったんでしょね」



古い器でお茶を頂けるのもうれしい楽しみ。

墨田区の「小さな博物館」に選ばれました。



たんすの引き出しを開けるとお宝が。「趣向がいいでしょ」



梶村さんの絵手紙は白黒が個性的。



お地藏さんやお坊さんの絵ばかりを展示した部屋で。

「ここは青い世界。ここにいると心が落ち着いて幸せなの」長く通うファンの声に分かる気が…。



パンの耳

静岡県熱海市 三浦恵美子

サンドイッチを見ると、思い出す光景がある。娘が2歳の頃、学生時代からの友人の家のお昼によばれた。運ばれた手作りサンドイッチを見た娘は、いきなり駆け寄ってすばやくほおばり、そして何食わぬ顔で遊びに戻っていった。

一瞬の早業で、皆あつげにとられたが、皿のそばに転がったパンの耳を発見した私の頭に血がのぼった。そんな食べ方をどこで覚えたのか。パニック寸前の私の救いの神は、友人の2歳の坊や。ちらばったパンの耳を次々に平らげていった。

「うちは硬いものを噛むと顎が強くなると教えてるの。だからパンの耳が大好きだね。競って食べるの」と言った友人のやさしい笑顔も忘れられない。2歳だった娘も今や3児の母である。

——ドッキリ、いろんな思い出がいっぱい。



合唱のプレゼント

広島県福山市 柳田圭子

私は、小さなピアノ教室を開いています。かわいい生徒が通ってきてくれるこの仕事を生きがいに、30年過ごしてきました。

2年前の9月、最愛の母が旅立ちました。50年以上も無償の愛を注いでくれた人を失った淋しさは、とてつもなく心細いものでした。

そんな気持ちと闘いながら、翌春も年に一度の発表会を行いました。40人の生徒の演奏が無事終わり、張り詰めていたものがゆるんだ瞬間、生徒たちが一斉に舞台上がり始めました。

「先生が元氣になって、これからも先生の笑顔がたくさん見られるように、みんなで合唱をプレゼントします」。お客様も一緒に歌ってくださり、会場が温かさに包まれ、胸いっぱい。涙が溢れて止まらなくなりました。母が生きていたら「今までで最高に素敵な発表会だったよ」と伝えたいと思いました。

——励まされて……。



洗濯機

岐阜県恵那市 澤美幸

突然ピーツと音が鳴り響き、洗濯機が止まった。慌てて中をのぞくと洗濯物が片寄り、エラーのランプが点滅。すぐに直してスイッチを押すと、無事に脱水が始まった。

ところが翌日も翌々日も。洗濯機を上から押さえるといいが、ついにさすがに逆戻りした。「いかん！水道代が高くなる」と家電屋さんへ。

量販店には流行のドラム式が並べられ、全自動の値段を見て驚いた。買った当時と10万円の差を見て、私の頭のそろばんが×印を告げた。「そっだー」基盤修理に1万円と言っていた友の話を思い出し、早速電気屋さんに電話をした。

電気屋さんが来て30分。「かまぼこ板のような物はないですか」と言う。ベニヤの切れ端を見せると洗濯機の足元に固定。1本だけ錆びていた足を水平にし「大丈夫。動かか確かめました」

恐る恐る値段を聞くと35000円だと言う。あまりの安さに、片想いが両想いになったように、半年間の悩みがウンのように晴れた。

——よかったですね。



うちの愛犬

熊本県南関町 釘本きん子

春になると愛犬コロの地獄の日がやってくる。年に一度の血液検査。私は2〜3日前から眠れぬ日々。手足を全く触らせず毎年大騒動になるからだ。一昨年は看護師さんと私の5人がかり、昨年は一人の看護師さんが抱えてくれたが、ギヤーというコロの悲鳴で、私も疲労こんぱい。

今年は覚悟して行った。係りの人は一人だけ。不安になったが、先生からお尻を押さえてと言われその通りになると、丁度コロの顔と向き合った。「大丈夫！ここにいるから」と励まし続けた。すると何と一言も発せず。思わず嬉しくて涙が出た。検査結果は全て良好。この日はコロのダイエットを忘れて甘やかしてしまった。

——うむ、よく頑張った！



ほしいといつて

大阪府豊中市 豊田栄子

「バアバ、いま、なにしてる？ぼくは、あさごはんをみんなピカピカにしたよ」と、4歳になったばかりの孫からメールが届く。いそいそと返事を打つ。今一番の楽しみだ。

先日、娘からの電話で、この孫と1歳半の妹の兄妹が、お屋さんごっこをしていた時の様子を知らされた。

「いらつしゃい。何が欲しいですか？」

「ジジー」「ハイ、4771円です」

「バアバ！」「両方で978円ですね」

（安っ！）娘は思わず吹き出したとか。でも、私たちは、欲しいと願われたことに感激！いつまでも必要とされるジジとバアバでいたいね、と幸せいっぱいになりました。

——メールで心がはればね。



ひまわりのタネ

茨城県ひたちなか市 鳥山康子

孫がひまわりの種を送ってくれました。小学4年生の男の子ですが、普段から私と文通をしています。

小ぶりの封筒に「プレゼント」と書いてあったので、中をのぞくとひまわりの種が5粒入っていました。手紙に細かく「5月までには種まきしてね、水はきちんとやってね」と書かれ、「茅ヶ崎のボクの家と、田舎のおばあちゃん家とどちらが早く大きくなるかなあ？楽しみだね」と締めくくられてありました。

親バカよりもっと甘い私ですが、ひまわりの花が咲いてくれるのを楽しみにしていると同時に、孫もひまわり同様に大きく立派に成長して欲しいと願っています。

——大きく育つて、花を咲かせて。

入園式！いつてきます！



愛知県碧南市 神谷玲子

仲良く

人間一人ひとり顔がちがい、考えがちがうのです。それを、自分の考えと同じでないから、といって、他を責める事はまちがいです。むしろ、自分と同じ考えの人があれば、それはめずらしい事であり、ありがたい事であり、これを「同志」として、いっそう仲良くする事です。

鈴木清一



愛の輪からのコラム “言葉”たち あいのわ
ふれあいから生まれた



次号から新しいテーマで 新連載をお届けします！

ダスキン愛の輪基金は、国内やアジア太平洋地域の障がいのある若者を海外へ派遣し、障がい者福祉や自身が希望するテーマの研修を受けていただいています。研修生たちは、活動の中でたくさんの人とふれあうことで成長します。新連載では、そんな彼らのご家族や研修先の方などのお話を通して、愛の輪の活動をご紹介したいと思います。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎ 06-6821-5270 HP <http://www.ainowa.jp/>

愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修支援を行っています。

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。

どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先

〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

no.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>

4～5ページの「古伊万里資料館」の連絡先

〒131-0041
東京都墨田区八広5-23-9 エーエス自動車2F
TEL: 03-3619-3867 FAX: 03-3619-3877
開館日／毎土曜日11時～18時(入場17時半まで)入館無料

ハンドルを伸縮させて
掃除にくい場所も
ㄱㄱㄱㄱ お掃除できます!

伸ばして高い所や家具のすき間を掃除するもよし、縮めて奥行きのないキッチンや階段を掃除するもよし。ララはこれ1本で色んな場所が掃除できます。今まで掃除しにくかった場所もお試ください。



あなたの **声** が原点です。
私たちは、そのお声とともに歩みつづけます。

ダスキンが大切にしたいのは、あなたの声——。
ぜひ、あなたの想いをお聞かせください。

お客様の声はインターネットにて承っております。

ダスキンお客様の声

検索

www.duskin.jp/voice

今号のキーワード

ハ ン ド ル

ハガキに書いてご応募ください!



「オリジナルラッピングギフト」の包装で
編集室セレクトのダスキン商品を

プレゼント!



抽選で
50
名様に

「喜びのタネまき新聞」編集室がダスキン商品4点を選びました。
●住まいの洗剤(泡タイプ・スプレー別添) ●吸水用ふきとりクロスピンク(1枚入)
●ハッピーコロコ(なでこの香り) ●布製品用消臭剤 リフレッシュワーム

※イメージ

下記の要領でご応募ください。

●ハガキに

- ①今号のキーワード ②郵便番号 ③住所 ④氏名
⑤年齢 ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名
⑨この新聞内で好きなコーナー
をご記入の上、下記あて先までお送りください。

●応募専用のあて先 ※郵便番号とあて先のみで届きます。

〒163-0265

住所は不要です。

(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.542」プレゼント係

- 締め切り 平成26年5月16日(金)当日消印有効
●当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成26年6月上旬お届け予定)
●応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。
※ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」プレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

株式会社 **ダスキン**

発行：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報の取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp

●この新聞をお届けしているのは